

おはようのあいさつを受けて

主任司祭 吉池 好高

さわやかな初夏の風に乗って、復活節の主日のミサには、復活されたイエスのみことばが響いています。

イエスの遺体が納められた墓の入り口が開かれていて、そこにイエスの遺体が見当たらないのを知って、狼狽しきっている婦人たちに、「おはよう」と声をかける人がいたのです。なんとその場にふさわしくない、彼女たちの心を逆なでするような挨拶であったことでしょう。それが復活されたイエスの第一声であったのです。

「おはよう」このあまりにも日常的なあいさつによって、復活されたイエスは、悲しみのうちにイエスの墓に来た婦人たちを、いつもの生活に連れ戻してくださったのです。「おはようございます」「おはよう」と言い交し合っていた、イエスとの日常に連れ戻してくださったのです。

イエスのあの十字架の死と、それに立ち会わねばならなかった悲しみはなかったかのように、復活のイエスと出会った婦人たちは、イエスのあいさつの言葉を聞いたのです。空耳ではなかったのです。「おはよう」と声をかけたイエスがそこにおられたのです。復活されたイエスのあいさつを受けた婦人たちは、弟子たちのもとに走ってゆきます。イエスがそう命じたからです。

こうしてイエスの復活の知らせは弟子たちにもたらされました。けれども、弟子たちには、それだけでは十分ではなかったのです。依然として、恐れに取りつかれたままの彼らは、戸口にしっかりと鍵をかけて閉じこもっていたのです。そんな弟子たちの真ん中に立ってイエスは「あなたがたに平和」と呼びかけられます。弟子たちは主を見て喜んだと語られています。

イエスの復活を語る福音書の語り方は、どこまでも大らかです。こんなことが本当にあるのだろうか。わたしたちはイエスの復活を語る福音書を読みながら考え込んでしまいます。けれども、それが、イエスの墓の前で婦人たちが経験したことです。閉じこもっていた部屋の中で弟子たちが経験したことです。そしてそれは、わたしたちがミサのたびごとに経験していることでもあるのです。

「おはよう」そう言って、イエスは今日もわたしたちを迎えてくださるのです。